

群馬県 グループホーム音和の家 地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念を変更し、具体的な目標をかかげ実践している。	分かりやすく変更し、具体的な目標を理念に併せて作成した。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者への支援方法に迷ったときなどは必ず理念に立ち戻って考えるようにしている。見えやすいところに掲示している。	運営推進会議で議題としたが、職員に一任との事になったので職員で考えて掲げた。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議で話題にしたり、ご家族や申し込みにこられた方、運営推進会議出席者等に紙を渡し伝えることで理解してもらえよう努力している。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の方に挨拶したり、仕事をしている場合にはお茶を出したりしている。畑に近隣の方がいる場合には利用者と一緒に散歩がてら行くときもある。野菜をいただいたりして、利用者も一緒に話しをする時もある。	<input type="radio"/> 近隣の方が立ち寄りやすい雰囲気を作りたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	現在、自治会、老人会等は参加していない。地域で行なわれる行事には利用者とともに参加するように努めている。	<input type="radio"/> 地域の方と一緒に交流する機会はいまだ少ないので増やしていくよう地域の方とよく話し合いをしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現在取り組みはなされていない。	○	地域密着型サービス連絡協議会等の活動に参加すること、他に独自に行なえることはないか検討する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営推進会議にて話題に上げ、意義についてはご理解をいただいているが、具体的な改善策を検討するには至っていない。	○	自己評価から少しずつピックアップして職員間で検討するようにしたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて公開したが具体的な改善には至っていない。	○	今後議題に上げ検討する。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	往来する時間が取れず、必要があれば電話で話すのみである。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在制度を利用している方はおらず、活用する為の支援も行なってはいない。管理者は学んでいるが職員や関係者には浸透していない。パンフレットなどの掲示は行なっている。	○	掲示や学習により職員が理解を深められるようにしたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連法について学んではいないが職員同士が虐待を行なわないようにお互いに注意している。	○	掲示や学習により職員が理解を深められるようにしたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に時間を掛けて説明し、納得したところで契約していただいている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員の苦情受け窓口と外部の第三者委員を苦情受けの窓口として設置している。苦情があれば運営推進会議の場において参加者に伝えることにしている。市の相談員を受け入れており、利用者と直接お話していただいている。	○ 相談員、第三者と連携を取り、意見の収集に努めたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「音和の家だより」を毎月発行し、その中で必要事項について報告するようにしている。記入は個々の担当者が記入している。金銭については1名小遣い程度管理している方がいるが、他は預かっていないので必要時にはホームより立て替えている。立て替えた分を請求書にあわせてレシートを渡すことで報告に代えている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員の苦情受け窓口と外部の第三者委員を苦情受けの窓口として設置している。寄せられた苦情は運営推進会議の場において参加者に伝えることにしている。	○ アンケートなどで意見を出していただく方法はいまだ取り入れていないので今後行なっていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング及び随時職員から意見、提案を受け、出来るものは随時実施している。ミーティングでは管理者と職員が同等の立場で話し合いをしている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務時間は現在固定であり、柔軟な対応が出来るとは言いが、必要に応じて勤務時間を調整する可能性はある。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は法人内では行なわれているが、異動のない職員が支えあい、利用者へのダメージを極力防ぐようにしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内においては内部研修、外部に出て行なう研修を計画的に行ない、またホーム内でも段階的に勉強会を開くようにしている。ホーム内の勉強会に同法人の他部署の職員が参加した事もある。	○	今後はさらにホーム内での勉強会を多く取り入れたいと考えている。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の連絡協議会の研修等はあるが参加出来ないときがある。交流研修等の企画には参加したいと考えている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	有給休暇を入れたりして休暇をとって頂く努力はしているが、施設内でのストレス軽減の工夫や環境作りは取り組んでいない。	○	落ち着ける休憩時間を導入するように検討したい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は管理者と連携して個々の職員の状況を把握するようにしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	申し込み時及び利用開始時に面談にて聴取する。時間をゆっくり取り、把握し、受け止めようと努力はしている。本人が表現出来ないときには家族等からの聴取をもとに思いやる努力をしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	申し込み時及び利用開始時に面談にて本人及び家族から聴取する。利用開始後も来園時その他電話等によりその都度話を時間かけて把握し、受け止めようと努力している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要性があればまず当法人の他サービス(居宅介護支援事業)や介護老人福祉施設等紹介するように努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族等には試しでの利用、見学等の話をさせていたが実現せず、そのまますぐに利用開始という形式になってしまっている。	○	お試しで利用出来るなど利用者の能力に応じ利用者が初期に受け入れやすい環境を用意しておくようにしたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常会話の場面等も大切に、また、職員が利用者と一緒に行なったり教えていただくところは教えていただきながら一方的に介護をしているという雰囲気を和らげるようにしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	現在、不穏時に連絡すると面会に来てくださる家族もいてその方については本人の精神の安定を職員と一緒に図ってくださるようになっていたり、相談を重ねていくようにしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	普段からご本人の状況をお話したり、外泊や外出を勧めるようにしている。食事の時に面会があれば居室で摂っていただくなどしている。行事のときに参加を呼びかけ、一緒に過ごしていただくように働きかけているがまだまだ十分ではない。	○	外泊、外出を勧めたり、これまで以上に行事にご家族を呼ぶなどの方法で支援したい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	常に面会や外出等をお願いしている。普段から連絡したり、ホーム便りにご本人の状況を記入し伝えるなどの方法をとっている。なじみの場所へ外出するような支援は家族に全面的にお願いすることとしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の人間関係を把握し、共同で行なう作業等において関係の良い利用者同士で行なったり、利用者同士が苦手とする部分を補い合うようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現在、事例がなく判断できないが必要な場合には継続的に関わる予定はある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話や話し合いの中で出来るだけ把握するようにしている。表現が難しい方については普段の行動、表情、その他本人なりの表現の仕方から希望を推測するようにしている。	○	会話その他のコミュニケーション、観察から今まで以上に本人の気持ちを推測できるようにしたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、経過等については新規の利用者については面接時、その他利用開始後でも細かく把握するように努めている。紹介があった場合にはサマリーに記入されているものに肉付けする形で聴き取りを行なっている。本人の行動の意味を考えるとときには生活歴を参照する場合も多い。	○	今後も分からないことに対して生活歴等を良く確認しながら本人本位にケアを検討できるようにしたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	アセスメントにより把握するように努めている。時には職員が手を掛けられない状態での行動を観察するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	会うことのできる家族には現状を説明し、意見をいただくこととしている。ご家族の意見をもとに計画の原案を作成するように努めているが全ての利用者に対して出来ているわけではなく、職員のみで検討する時のほうがまだ多い。	○	今後はさらに家族が参画した形での介護計画が立てられるようにしたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	大きく状態が変わったときには随時見直しを行なうこととしている。出来るだけ家族の意見、本人の意見も聴き取ろうと考えているが、職員主体となってしまう、本人、家族等には変更内容を伝えるに留まることも多い。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録用紙は日誌と別に用意し、個別に記入できるようになっている。特別に実践したことは「ケアの内容、結果」を記載するようにしている。重要事項については申し送りや日誌に記入し、職員は出勤時に確認している。申し送りの時間は設けていないが、出勤時に職員同士で情報交換している。	○	必要があれば記録の書き方も工夫していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診に家族が行けない場合には職員が対応しているが、その他様々な場面で柔軟に対応しているとは言い難い。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	意向がなく、現在取り入れていない。慰問、法人として受け入れているボランティア等は受け入れているが個人の意向としては活用できていない。防災訓練については消防署の職員が来てくれる。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービス等を利用する機会がなく行っていない。(全てホーム内でサービスを提供している。)		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	協働事例はない。権利擁護事業も利用していない。	○	必要があれば協働していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームと提携している協力医療機関はあるが、入居前の経緯やご本人が持っている疾患、希望により協力医療機関以外の医師をかかりつけ医としている利用者もいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	心療内科の医師に掛かっている利用者もいるが、普段から相談するという関係には至っていない。	○	気軽に相談できる医師がいれば相談するようになりたい。
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	かかりつけ医による健康診断や、法人内の看護師に相談することがある。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時にも家族や病院と必要な情報交換をするように努めている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームでは終末期や看取りまで視野に入れた対応は検討していない。家族の希望は聴き取り、出来ることは行なっていくようにしている。必要時には医師の往診と家族、職員と協議している。	○	現状では対応困難なケースでは他のサービスに切り替えることを検討する。(体制がかならずしも整っていない為)
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化した利用者は特別養護老人ホームに移っていただくことをはじめに検討し、それまでは出来る事はホームで行なっている。終末期の利用者に対する方針は決まっていない。かかりつけ医と相談、連携し、出来る事は医師、家族、職員が協議しその都度対応している。	○	現状では対応困難なケースでは他のサービスに切り替えることを検討する。(体制がかならずしも整っていない為)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	最近住み替えの事例はないが必要時にはこれまでのサービスと差がつかないよう先方の担当に引き継いだりするように努める予定。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	法人での個人情報の使用に関する同意書により記録や広報誌等への記載、居室の入り口に名前を貼る事やケース会議における情報の使用に至るまで同意を得た上で行なっている。利用者の名前は「さん」付けで行ない、場面ごとに羞恥心などに配慮した声掛けをしている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ご本人の分かる力に合わせた説明方法を職員が把握していて、出来るだけご本人が決めたり、納得できたりするように努めている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴時間や食事時間は日課にそった支援になってしまっていて個人のペースに添えていないところもある。本人のそのときの気分によって時間をずらしたりすることはある。	○ 個人の希望を再確認し、出来るだけ本人ペースの生活が出来るようにしたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理美容については出入り業者は決まっているが、強制ではなく望む理美容店を使っている。入居時及び随時希望は聴いている。その際基本的に家族に送迎していただいているが必要に応じて職員が送迎することもある。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月1回のお好み食事会では該当月の誕生者の好みを聴いたりして準備から一緒に行なうことで対応している。本人が言えない場合には家族に聴くこともある。普段は法人の栄養士が立てた献立に基づいて食事を提供しているので好みに応じているとは言い難い。準備は職員が行ない、片付けは利用者数名が出来る事は行なってくれる。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	以前習慣として煙草、酒を嗜む方がいたので現在検討中。その他個人的に食べたいものなどは家族に用意していただいております。随時提供できるようにはなっていますがお茶などは日常的に同じものを出してしまう事もある。水分については嫌いで飲みが悪いものは代替として違うものを出すことがある。	○ 嗜好を生活に反映していけるようにしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	定時でおむつ交換する利用者はいない。排泄チェック表や個人の排泄サインの把握をしながら誘導が必要な方でも出来るだけ一斉の誘導をなくして個人のペースでトイレに行けるようにしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	2日に1度を基本として時間を決めて入浴している。体力等に合わせ入浴回数を調整している。そのとき入浴したがいらない利用者がいれば時間を後に回して声を掛けるか翌日に回せるようにしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	状況を見ながら安眠できるよう支援している。どうしてもベッドで休むことが出来ない場合にはホールのソファや畳の上などその時落ち着ける場所で休んでいただいている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	仕事、趣味、特技、生活歴等により本人が持っている力を活かした楽しみの支援をしている。利用者によっては「これは私の役割」と自覚して活動を行なう方もいる。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を所持している方は1名いる。他は施設で必要な額を立て替える。利用者が出掛けたときには出来るだけ現金の支払いだけでも利用者にしていただくようにしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣に散歩に出掛けたり、行事的に外出したり、事業所で使用するものの買い物のほかは家族による外出のみである。	○	当たり前のように出掛けられる機会を提供できるようにしたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族による外出支援以外、ホームで提供する個別での外出は現在行っていない。	○	今後要望があれば対応したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望する利用者については電話をしたり、本人が書いた手紙を送ったりしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	特別な工夫は行なっていないが、利用者家族だけでなく、親戚や知人も面会に来ている。訪問時はゆっくり出来るようお茶を提供したり、食事時間に掛かる場合には居室で食事を摂ることができるよう希望を伺ったりしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年度、法人の内部研修会で身体拘束について学んでいる。現在やむを得ずホームの建物外に出られないように鍵を掛ける行為をすることがある。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	現在、離園が頻繁な利用者があり、職員が手薄な時間帯には鍵を掛けてしまうこともある。職員が多いときには鍵を外し、離園してもいいように法人の職員にもご本人の見守りの協力を要請している。居室には鍵を掛けないようにしている。夜間は防犯上の観点から施錠をしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	姿が見えない場合に備え、普段ご本人が好んで過ごしている場所を把握するようにしている。居室に入るときにはノックをしたりして所在を確認したり、入ってよいか確認したりしてから入るようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤等は手の届くところに置かないようにしている。トイレトペーパーを持ちたい方が多いがトイレには置かず、個人で持っていていただくか必要時に手渡している。タオル類は持ち帰っても迷惑がかからないよう予備を用意している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	考えられるリスクについては職員が把握して個別に、予防的に対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員が個人的に講習を受けてはいるがホームとしては応急手当の訓練等は行っていない。	○	今年度中に実施予定。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	総合防災訓練時において地域の方にも参加と協力をお願いしている。	○	訓練時において協力を得やすいような時間設定を行ない、協力出来る内容を検討したい。(以前の運営推進会議では避難した利用者の見守りという話が出た。)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時等に話しが出来ている利用者もいれば説明できていない利用者もいる。ホームとしては出来るだけリスク軽減のために抑圧する方向はとらないように考えている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルサインのチェックを行なっている。変調がある場合には職員同士で情報を交換し合ったり日誌に記入したり、専用の用紙に記入したりしている。家族、かかりつけ医には速やかに連絡するようにしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効果の書類をファイルに綴っており確認出来るようになっている。必要に応じては法人のインターネットで検索する事も行なう。職員も概ね効果を理解している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	特別な対策を行っていない。下剤を定期的に飲んだり頓服で飲んだりしているのみである。センナ茶は用意してあるが普段は活用していない。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後一人ひとりの能力に応じて口腔ケアを行なう。個人に任せている利用者もいる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>		
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている	ベッドと備え付け家具、収納以外は家具等持ち込んでいた だくよう家族に話しをしている。リネン類も個人で用意してい ただいている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	掃除の時に換気を十分に行なったり、真夏や冬でなければ 窓を開け出来るだけ自然の環境の中で過ごせるようにしてい る。エアコンと天井扇によりホールは快適に過ごせる気温に しているが、外気温と大差はつけずに、利用者に温度を確認 したりしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れる ように工夫している	転倒の危険性や疲れやすさに応じて休憩できる椅子やつか まれる所を増やしたりしている。場所が分からなくなる方には 居室やトイレ、お風呂などの表示を見えやすい高さにして分 かりやすいようにしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	利用者の見えやすいところに名札をつけたり、トイレなど表示 をして出来るだけ間違いがないように心がけている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	ベランダにはプランター、建物の下に畑があり、野菜が栽培 されているので職員と利用者が世話を一緒にしたり取ったり している。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

豊かな自然に囲まれた環境の中で「利用者が尊厳を持って、望む生活が送れるよう支援する」という理念を掲げており、利用者は高齢でありながらも自分で出来る事は自分で行なうことを大切にしながら生活していただいている。毎日筋力トレーニングを行ない、身体状況の著しい低下を予防するようにしている。利用者の中には利用開始当時車椅子だった方が押し車で歩くことが出来るようになっていたりしている。食事は全面的に利用者職員で作っているわけではないが法人から提供されるバランスの良い食事と、それだけでなく畑でとれた新鮮な野菜をその都度調理したり、月1回の「お好み食事会」で「食べたいもの」提供している。畑で取れたり近所の方からいただいたものは利用者と職員と一緒に下ごしらえをしたり、調理したりしている。利用者と職員が和気あいあいとしており、一緒にレクリエーションしたり、お話したり、ゆったりとした雰囲気の中で生活していけるよう配慮している。活動も皆で一緒に行なうものだけでなく、個別に出来るもの、したい事はしていただいている。これからも本人が「出来る事」を大切に支援したいと思います。